

番号	意見	資料3への反映等
1	「地域」の概念をできるだけ限定すべき	1-(1)p2に反映
2	民生委員とCSWとの連携により困難事例に対応すべき	1-(1)p2の中で検討
3	ひきこもり等に関する正しい知識を周知しながら徐々にネットワークを構築していくことが必要	1-(2)p3及び9-(1)p16に反映
4	ワンストップで相談を受けられる相談体制の整備が必要	2-(1)p4に反映
5	ひきこもり等の若者を発見した場合つなぐ先を明確にすることが必要	2-(1)p4に反映
6	ネットワークの中で専門家の意見を聴きながら支援プログラムにつなげていくべき	2-(2)p4及び9-(1)p16に反映
7	長期間ひきこもっている若者に対しては適切な支援機関につなぐために専門家の見立てが必要	2-(2)p4に反映
8	就職活動より前段階(規則正しい生活習慣を取り戻すなど)の支援を必要としている若者も多い	3-(1)p5・(2)p6及び4-(1)p7に反映
9	就労に向けたシステムづくりを基本方向Ⅱに入れるべき	施策目標4p7を追加
10	中間労働市場という概念を加えるべき	4-(2)p8に反映
11	最低賃金を割った形など企業が受け入れやすい雇用形態を検討すべき	4-(2)p8の中で今後検討
12	不登校・中退対策については環境が変わる場合(中1・中3・高1など)のきめ細かい支援を行うことが必要	6-(1)p11・(2)p11に反映
13	特に不登校対策の中で研修の内容と実態の話が乖離している場合があり、計画において実態に即した支援を入れるべき	施策目標6p10の中で今後検討
14	高校中退予防も項目に追加すべき	6-(2)p11に追加
15	退学になる場合はその先の進路指導を丁寧に行うことが必要	6-(2)p11に反映
16	長尾谷高校・近畿情報高等専修学校との連携により不登校等の生徒の受け入れを進めるべき	6-(2)p11の中で今後検討
17	家庭教師的な学習支援策など個の学力に応じた支援が必要	6-(2)p11の中で検討
18	市内6大学の学生を活用した家庭教師的な学習支援を検討すべき	6-(2)p11の中で検討
19	中学校で不登校を続けている場合は高校に入る段階でインタークを通じて早期に適切な支援につなげていくべき	6-(2)p11の中で今後検討
20	ひきこもり等問題は放置すると日本の将来にとって危機的な問題で社会全体で対応すべき課題であるが、個人の問題だと思われる傾向にある	7-(1)p13の中で「社会全体の問題として捉え」と挿入
21	家庭や地域の力の向上に関する取り組み、啓発を推進すべき	7-(1)p13に反映
22	根本の考え方として若者に問題があるということではなく、適応できない若者を生み出している社会に問題があるとすべき	7-(3)p14、計画の推進体制などに反映
23	メンタルケアの重要性を啓発すべき	7-(4)p14に反映
24	家族会の役割を強調すべき	施策目標8(p15)に反映
25	ネットワークを育てて実効性のある支援の場とすることが必要	9-(1)p16に反映
26	ネットワークにおいてケース会議に近いことができるようにすべき	9-(1)p16の中で検討
27	関係機関で相互に勉強会等を行うことで情報共有することが必要	9-(1)p16の中で検討
28	NPO等が意見を出し合える場を創設すべき	9-(1)p16の中で今後検討
29	地域の機能は働いていないという前提で対策を検討すべき	地域に過度の負担をかけることはできないが、21～23の趣旨を啓発するなど地域の役割の大切さを前提とすべき
30	「自立」の考え方について議論を深めるべき	事務局案では「自立」を一つの意味合いに限定せず、それぞれの段階に応じ使い分けている。次回幹事会で改めて検討
31	年齢層に応じた支援策を整理することが必要	庁内とネットワークで検討
32	個別施策について短期・中期・長期の順位付けをすべき	庁内とネットワークで検討